

二宮町立一色小学校

研究テーマ：9年間を見通した共通性と一貫性のある指導・支援を通した、
「学びに向かう力」の醸成と資質・能力を育む指導のあり方(2年次)

1、実践の目的

学習活動において「主体的・対話的で深い学び」を通して、二宮町が育みたい汎用的な資質・能力を育成したい。そのために小学校で身に付けた資質・能力を中学校に引き継ぎ、発展させることが必要である。そこで義務教育9年間を見通して、小・中学校が共通性と一貫性のある指導・支援を行うことが不可欠であると捉えた。このことにより、小・中学校の指導・支援がぶれることなく資質・能力を育成できると考えた。

二宮町で育みたい汎用的な資質・能力		
知識及び技能	思考力 判断力 表現力	学びに向かう力 人間性
①主体的に継続して勉強する	①必要な情報を集めて分析する	①多様な価値感の仲間を増やす
②多様な学びで知識を吸収する	②状況に応じて適切に判断する	②互いの違いを認めて高め合う
③知識を応用して上手に使う	③論理的で柔軟に思考する	③諦めずに自分の夢をかなえる
	④自分の考えを正しく伝える	

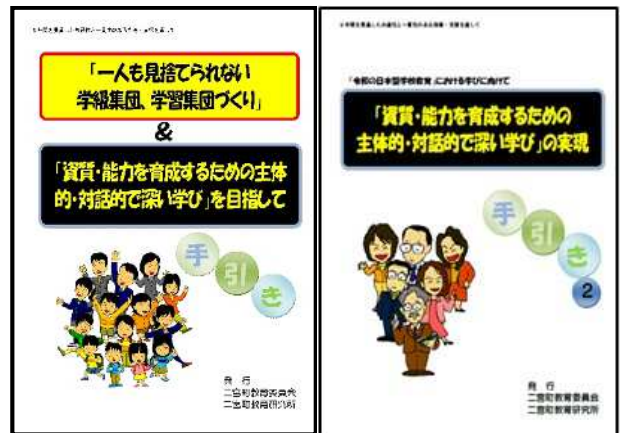
また、児童生徒が「学校に行くのが楽しい」と思えるのは所属する集団で「自分のよさを発揮できていること」言い換えれば「自分にはよいところがあると思える」ことが重要な要素と考えられる。このように一人一人の児童生徒がかけがえのない存在として認められている必要がある。そのためには小・中学校を問わず「誰一人取り残されない学級集団・学習集団づくり」に前述と同様、共通性と一貫性を持って取り組む必要がある。このことが「学びに向かう力」の基盤づくりにつながると考えた。

以上2つを実践の目的とした。

2、実践の内容

(1) 5校統一の講師と研究の手引き

研究を推進するに当たり共通性と一貫性をもって研究に取り組めるように、二宮町5校統一の講師として教育力向上アドバイザー吉新一之氏（元川崎市立川崎小学校長）を迎え、各校で行われる校内授業研究会に事前検討会を含めて指導・助言を仰いでいる。また講師監修のもと研究の手引きを作成し、全ての先生方に配付し、それに基づいて研究に取り組んでいる。



(2) 研究授業、研究協議の様子

第1回研究授業は、3年生国語科「段落とその中心をとらえて読み、感想を伝え合おう『こまを楽しむ』」で行った。「中」に書かれている筆者の説明している内容を読み解くために、意見の拡散から収束に向かう話し合い活動をねらいとした。発言することが難しい児童に寄り添う児童の姿や、友達の発言に対して、頷いたり、反応したりする児童の姿が見られ、受容的雰囲気の中で学

ぶことができていた。

研究協議では、拡散から収束に向かうことで思考過程を経た知識や目に見えない仕組みを捉えられるようになる思考力を獲得できることをご助言いただいた。児童に任せていくことで、より主体的な学習を行っていく必要性を実感した。



第2回研究授業は、5年生国語科「人物像を捉え、自分の生き方について考えよう やなせたかし アンパンマンの勇気」で行った。自分だけで意見を出せなかった児童が、友達との意見交流を通して自分の考えをもてるようになっていた。

研究協議では、日々の授業における積み重ねの大切さを確認するとともに、児童自身に自発的に質問が生まれるような授業に必要なものについて意見を交わした。

3、実践の成果

授業そのもののスタイルが大きく変わってきた。一斉型の授業の比率は下がり、学び合いを軸にした話し合いの授業の比率は上がり、教室には教師の大きな声ではなく、児童の懸命に発言する声が多く聞かれるようになった。

授業が変わっていくことにより、児童は、話し合いの授業を楽しみにするようになってきた。楽しみになるからこそ、主体的に取り組む姿や助け合って取り組む姿など、資質・能力に係る児童の具体的な姿が見られるようになってきた。

児童の姿から、話し合いの授業に手ごたえを覚えた教師も変わってきた。児童の楽しそうな学びの姿は、教師冥利の一つでもある。そうした児童の学びに向けて、今までの指導や教師自身のあり方を振り返ったり、話し合いの授業の実践を重ねたりしており、教師の主体的な姿も成果の一つである。

4、今後の展開

(1) 残された課題

話し合いの実践の積み重ねは十分ではなく、実践を積み重ねるとともに、話し合いの授業をファシリテートしていく教師の技術や理論理解のさらなる向上が求められる。

また、児童が「言えただけ、聞いているだけ」に留まってしまい、意見のつながりや共通点を見出だし、自分たちで学びをまとめたりすることが難しい側面も見られる。

(2) 今後の研究について

意見のつながりを意識した話し合いの質の向上や児童の学び合いへの教師の関わり方などについて、さらに研究を深め、未来を生きる児童に必要な資質・能力を養っていききたい。

20221114

校内研究のふりかえり

